

京都大学会場:2010.10.5.

東京大学会場:2010.11.9.

平成22年度 大学図書館職員短期研修

大学の教育改革と 大学図書館の役割

高崎経済大学 経済学部

高松 正毅

はじめに

発表者自己紹介

専門は日本語学、学部で唯一の日本語の専門家としてレポート・論文の読み書き教育の責任者となったことから、大学教育全般にまで対応領域を広げざるをえなくなった。

本日の配布資料

「大学の教育改革と大学図書館の役割」「アカデミック・リテラシーからスタディ・スキルズへ、さらには初年次教育への展開」「初年次教育関連文献書誌」「一般に市販されている大学による大学生のための「情報リテラシーテキスト類」」

本研修について

発表者自身が学びたい。参加者の皆さんの意見を聞きたい。

本日の発表内容

1. 日本の大学の現在
2. 大学生の現状
 - 2.1 人口変動による学力低下
 - 2.2 より深刻な学習意欲の低下
3. 社会からの要請と大学の行方
 - 3.1 「質保証」という要請
 - 3.2 大学の変質と対応
 - 3.2.1 高大接続
 - 3.2.2 初年次教育
4. 大学図書館への期待

1. 日本の大学の現在

清成 忠男(法政大学学事顧問・元法政大学総長)

「高校卒業生数は、第二次ベビーブーマーのピークであった1992年と、直近の2009年を比較すると、41%も減少しています。この間に、大学進学率は26%から50%に急上昇し、大学入学者数は全体では12%増加しましたが、大学数は773校へと48%も増えています。その結果、大学間の受験生の奪い合い競争は熾烈をきわめています。今後は、少子化によって高校卒業生はますます減っていきます。他方、進学率はそろそろ頭打ちになり、大学間の受験生の奪い合いはいっそう深刻化していくでしょう。」

読売新聞教育取材班(2010)『大学の實力2011』中央公論新社 p.23.

2. 大学生の現状

2.1 人口変動による学力低下

学力低下論への懐疑

18歳人口(母集団)が縮小した結果、大学入試による選抜は機能不全。

大学の危機は下から上がってくる。弱小なところから影響を受けていく。

大学は、大学本来の授業をしたい。ところが、低学力の学生でも受け入れられないといけないのが現実である。では、授業をどうするのか。

参加国増加の中でのPISAの順位低下

上がっていないことはたしかだろうが、言われるほどの急激な落ち込みはないのでは。

教育の効果は後になって現れるもののはず。にもかかわらず、即効性のある目に見える成果ばかりを求める社会的風潮も問題。

退学率と標準修業年限卒業率

日本の大学は入るのも易しく、出るのも易しい。

・退学率

OECDの2005年調査：日本は10%、1位イタリア55%（学部レベルのみ）、
2位アメリカ（フルタイム学生のみ）53%、
3位ニュージーランド46%、4位ハンガリー45%（平均31%）

・標準修業年限（4年）卒業率

OECDの2004年調査：日本の91%は、平均の約70%から突出した1位。
2000年94% → 2008年84.6%（最高99%、最低46.6%）

国際教養大学：2010年調査で最低の41%

授業は全て英語、在学中必ず1年間は留学。

本気で鍛えるならこうなるはずでは。

学生がだぶつければ交付金や助成金がカットされる、授業料は高い、.....

出さないわけにはいかない日本の大学の事情。

2.2 より深刻な学習意欲の低下

「本を読まない」「勉強をしない」大学生と受験生

約六割の大学生が、一ヶ月に1冊の本を読むか読まないかである。

約六割の受験生が、ほとんど勉強をしていない。

大学教員の印象でも、今の学生は、授業にはまじめに出席するが、携帯電話や私語が多く、家ではほとんど勉強しない。



内実や実質を伴わないまま、見かけや形式だけは整えようとする。半期15回授業実施の徹底、出席点加味の禁止。

3. 社会からの要請と大学の行方

3.1 「質」保証という要請

日経連：エンプロイアビリティ

A 労働移動を可能にする能力

B 当該企業の中で発揮され、継続的に雇用されることを可能にする能力

厚生労働省：就職基礎能力（エンプロイアビリティ）

労働市場価値を含んだ就業能力、即ち、労働市場における能力評価、能力開発目標の基準となる実践的な就業能力

経済産業省：社会人基礎力

職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力

文部科学省：学士力・「就業力」育成支援事業

学士力：「1知識・理解」「2汎用的技能」「3態度・志向性」「4総合的な学習経験と創造的思考力」の4分野13項目 2の(3)が情報リテラシー

「就業力」支援：入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行い、学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援する

3.2 大学の変質と対応

3.2.1 高大接続

70年代後半から80年代に入り大学は「レジャーランド」と呼ばれたが、そもそも大学は学生を勉強させるシステムを全く作ってこなかったことへの反省がある。

高校から大学へとソフトランディング(軟着陸)させるためのしかけが必要となった。

「Eラーニング」に依存: 人手がかからない

居場所づくり 友だちづくり支援

関東学院大学工学部: SNS

嘉悦大学: 24時間開放の学生ラウンジ

金沢工業大学: 24時間開放の図書館・自習室

名古屋工業大学: カウンセラーズカフェ

帝塚山大学: バーベキューコーナー

2. 初年次教育とは

＜一般的な「初年次教育」科目の教授内容＞

1. 自校教育: 自大学の歴史・沿革、自大学の社会的役割、卒業生、就職先
2. スチューデント・スキル: 生活面: 自己管理、時間管理、心身の健康、大学生活(友人関係)、
社会生活、近所づきあい、各種勧誘対策(ソーシャル・スキル)
学習面: 高校までの学習と大学での学びの違い、大学での勉強の仕方
(スタディ・スキル)
3. 学習方法・履修計画: 資格取得やキャリア・デザインを見据えた勉学の進め方
4. 受講体勢・学習技術: 講義の受け方、メモ・ノートの録り方
5. 読解の技法: テキスト、論文、専門書、新聞、雑誌、各種データ
6. リサーチ(インプット)・スキル(情報収集): 図書館: 活用法(OPAC, ILL)、各種レファレンス・ツール
(参考書、各種辞書・事典、白書)
PC: データベース、ポータルサイト、インターネット検索
7. アウトプット・スキル(情報発信): 口頭: プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート
文書: 発表用資料(レジュメ)、レポート、論文
8. コンピュータ・リテラシー: ワード、エクセル、パワーポイント、情報の整理、メール通信

上記の他に、オリエンテーションやガイダンスとして行われることが多い「履修案内」、また「金融教育」や「キャリア・デザイン教育」、「専門教育への導入」などを含むことがある。

学術情報リテラシー教育は、初年次教育の中核部を占める。

『大学基礎講座』目次

- 第0講 この本で伝えたいこと: 大学で何を学ぶのか?
- 第1講 ノートの取り方1: 大学の多様な授業スタイル
- 第2講 ノートの取り方2: 役立つノートとは
- 第3講 テキストの読み方: より深い読解のために
- 第4講 要約の仕方: 内容本位でまとめる
- 第5講 きちんと考える方法: 自分の意見を言うために
- 第6講 図書館の利用: 図書館探索と資料の検索
- 第7講 レポート・論文の書き方1: 基本編
- 第8講 レポート・論文の書き方2: 内容編
- 第9講 レジユメの作り方: 発表のための資料
- 第10講 ゼミ発表の仕方: 聞く気にさせる話し方

『学びのステップ』目次

第Ⅰ部 はじめに

第1章 スタディ・スキルズとは

第Ⅱ部 聴く・読む

第2章 ノート・テイキング

第3章 リーディングの基本スキル

第4章 より深いリーディングのために

第Ⅲ部 調べる・整理する

第5章 大学図書館における情報収集

第6章 インターネットによる情報収集

第7章 情報の整理

第Ⅳ部 まとめる・書く

第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル

第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために

第10章 パソコンによるライティング・スキル

第Ⅴ部 表現する・伝える

第11章 プレゼンテーションの基本スキル

第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために

関連四学会

大学教育学会：いわゆる一般教養科目を担当する大学教員を中心に1979年12月に一般教育学会として発足した学会が、1997年6月に改称

日本高等教育学会：1997年7月設立

日本リメディアル教育学会：2005年3月設立

初年次教育学会：2008年3月設立

研究大会では、実践報告ばかりでなく、ワークショップやラウンドテーブルも。
興味のあるものには是非参加を。

4. 大学図書館への期待

人形は顔が命、大学は図書館が命。

初年次教育の中心≡図書館利用教育の領域3・4・5

大学図書館が教育的機能を担うことへの期待大。大学図書館こそ、読み書き教育の拠点へ。

大学図書館のホームページには、リンク集の充実とパスファインダーの整備を。

図書館司書は、「答える存在」から「教える存在」へ。そのためには大学図書館司書が高い能力を有していることが前提。

教員との協働、教育(カリキュラム)との連動で相乗効果を。教員への教育も急務。もはや多くの教員はついていけない。

協力・連携のために

「現在出題中のレポート課題一覧」の作成

担当教員名 / 授業科目名 / 課題名・課題内容 / 締切 / 提出先 / その他

教員は、図書館に課題内容をあらかじめ届け出る。

図書館司書(レファレンス担当)は、持ち込まれうる課題に備える。

教員と司書が互いに連絡を取り合い、相談内容や対応状況を確認し、学生の学習をサポートする。

山内祐平編著(2010)『学びの空間が大学を変える』
ボイックス

ラーニングスタジオ

東京大学: 駒場アクティブラーニングスタジオ

ラーニングコモンズ

東京女子大学: マイライフ・マイライブラリー

コミュニケーションスペース

公立はこだて未来大学

ただし、スペースを確保するだけでは何も動き始めない。

機能するための「しかけ、仕組み、からくり」が必要。

大事なものは「人」!